

拓友 29

日本大学拓友会会報

生物資源科学部 国際地域開発学科

第29号 2006年6月発行

国際分野での活動・着実に進展



ガーナ・アシャマン村にて村民と学生

学科発展にいっそうの支援を!!



拓友会会長

内田 俊太郎

拓友会の皆様には平素よりご支援をいただき深く感謝申し上げます。

21世紀に入り、少子化・高齢化の進展による社会の変容、IT技術の飛躍的な発展、グロ

ーバル化による国際競争力の激化など、国内外で複雑かつ不透明な時代になりました。特に少子化の進展は、ご承知の通り大学経営に深刻な影響をもたらしています。

校友会の目的は「会員相互の親睦と向上を図り、母校の興隆発展に寄与し、会報発行・名簿の作成を行う」ことにありますが、少子化が進展する中で、今後は学科発展の支援と学生支援

をより具体的に行うことが重要と考えています。

国立大学法人化により千葉大・宇都宮大・名古屋大等では優秀な教職員・学生確保のためキャンパス内に保育所を設置することを決め、昨年はすでに、北大・東北大・お茶の水大・早稲田大等でも開設しております。大学はすでに「冬の時代」から「氷河期」へと突入しており、今後10年間で「定員割れ・廃校」という危機的状況が出現し、恒常化すると予測されています。

当然ながら国際地域開発学科も、意欲ある学生にとって「学びたい特徴ある学科」であることを目指して、たゆまぬ努力がなされております。その実現は校友の願いでもあり、側面的な提言とともに、微力ながらできる限りの支援を考えたいと思います。

会員の皆様には、引き続きいっそうのご指導・ご支援いただきますようお願い申し上げます。

総会開催

平成17年度 拓友会総会・懇親会開催

平成17年度拓友会総会が、平成17年6月25日に日本大学生物資源科学部本館13階で行われました。まず、内田俊太郎会長の挨拶があり、議長に長谷川勝夫氏(42年卒)を議長に選出し、議事に入りました。

第1議題

平成16年度事業報告案が早川事務局長から説明され、原案通り承認されました。

第2議題

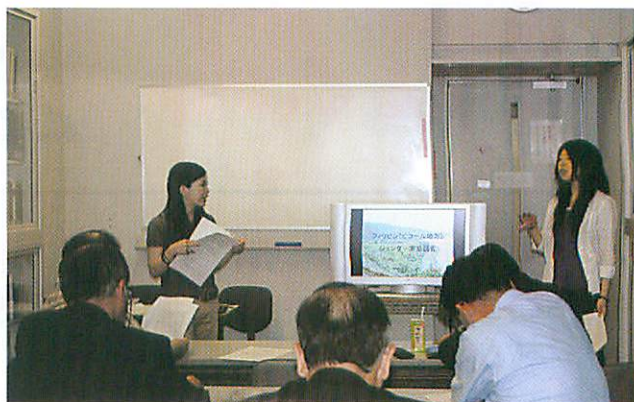
平成16年度決算報告と監査報告について、当該年度収入額1,460,012円、支出1,544,282円との報告がありました。そして会計監査より適正に処理されている旨報告がなされ、慎重審議の結果、承認されました。

第3議題

平成17年度事業計画ならびに第4議題の平成17年度会計予算案が審議され、原案通り承認されました。

第5議題

平成17年度から19年度の新役員案が上程され、審議の結果原案通り承認されました。



総会終了後、懇親会開催までの間、学生による海外研修報告会が行われました。今年度は、林ゼミ卒業生の小泉友紀さんから「青年海外協力隊活動報告」、増見ゼミの三沢百絵さんと須藤ひさよさんから「フィリピンのジェンダー調査の実態」の報告会が行われ、OB諸氏との熱心な質疑が交わされました。

懇親会は、「国際地域開発学科会議室」を会場にして、近藤会長の乾杯の発声によって懇親がスタートしました。学生を交えてOBとの懇親の輪がいくつもでき、和やかな会が続きました。

役員名簿

平成17～19年度 拓友会新役員が決定

※敬称略()内は卒業年度

顧問	近藤 良三郎		
参与	木村 正之 山澤 新吾 佐藤 猛	水野 包男 浜口 喜博	
会長	内田 俊太郎(43年)		
会長・会長代行	谷地 三知也(44年)		
副会長	鈴木 孝昌(42年)	横塚 攻(44年)	
常任幹事	平岡 完勝(44年) 幸田 正人(46年) 大津 隆(48年) 西木 敏夫(50年) 深田 伊佐夫(55年)	井上 雅也(45年) 徳江 一恵(46年) 石川 治夫(48年) 田崎 秀明(54年) 佐藤 弘康(H7年)	
幹事	増淵 久生(47年)	小谷田 操(52年)	

幹事	松田 正行(52年) 長沢 丘(56年) 横山 俊之(58年) 岡田 達也(59年) 中村 秀樹(60年) 石井 正樹(63年) 田中 伸一(64年) 大石 敦史(H元年) 川瀬 真樹(H7年) 平塚 大亮(H9年) 宮崎 由佳(H10年) 大吉 洋平(H11年) 本橋 弘康(H13年) 和泉 祐子(H15年)	石井 正剛(54年) 貝塚 英雄(57年) 中村 正幸(59年) 三樹 春幸(59年) 森本 憲(61年) 鈴木 智久(63年) 石川 大輔(66年) 垂水 百合香(H元年) 山田 寛之(H8年) 村上 義孝(H9年) 松本 晃宏(H10年) 杉本 登(H12年) 篠宮 裕子(H14年) 山田 智英(H16年)	
監事	長谷川 勝男(42年)	山中 喜明(47年)	
事務局	早川 治 倉内 伸幸	半澤 和夫 北野 収	

入学状況

平成18年度は136名の新入生を迎えました。うち男子86名(63.2%)、女子50名(46.8%)です。中国からの留学生が2名、モンゴルから1名います。出身高校別では、日大付属が53名(40%)、公・私立別では公立高41%、私立高59%です。

都道府県別(出身高校所在地)では、神奈川県

出身者の44名(33%)が最多で、ついで東京都35名(26.5%)、静岡県8名、茨城県7名、埼玉県・長野県・福島県各4名、千葉県・山梨県各3名です。北は北海道、南は福岡県の22都道県に及びます。新入生のほか、復学・留年生が12名おり、1年の在籍学生数は148名となります。

鎮魂の祈り



緒方 行廣 先生逝去

去る1月2日、学科OBでもあり、研究・学生指導に熱く取り組んでおられた緒方先生が惜しくも逝去されました。先生は昭和49年に卒業後、文理学部の大学院を経て56年から本学科に勤務され、開発社会学をはじめとする科目を担当、ゼミでも学生に大いに慕われました。さらに日本国際地域開発学会では発足当時から庶務関係を担当、学術会議登録に尽力されるなど、なくてはならない存在でした。病のためとは言え、ここで緒方先生を失うことは計り知れない痛手であり、じつに残念でなりません。

心より先生のご冥福をお祈り申し上げます。

開発社会ゼミ

緒方先生との思い出

平成18年3月25日、私達4年生は卒業式を迎えることができました。頂いた学位記を見ると、これまで過ごした日々がとても懐かしく、そしてかけがえのない時間であったと胸に感じます。3年次より2年間、私は緒方先生の開発社会ゼミナールにお世話になりました。ゼミがスタートした当初は活動を行う教室に集合していたのですが、いつの間にか先生の研究室の方に集まるようになっていきました。そして先生と談笑して、時間になったら教室の方に移動するというのが定着しました。ゼミ生の全員が先生の人柄に惹かれて、空き時間になる度に先生のところへ伺っていたような気がします。そしてその度に、先生は自分の作業を中断して笑顔で迎えてくださり、たくさんのお話をしてくださいました。

卒業パーティーの後、ゼミ生で集まって先生



2005.9.沖縄研修旅行

の研究室に伺わせていただきました。中には沖縄で撮った写真や、ドアノブに掛けてあるぬいぐるみ、先生の資料など、私たち開発社会ゼミのメンバーにとっての思い出が詰まっていました。開発社会学研究室は私たちが先生と一緒に学び、笑い、努力した場所です。たくさんの方の事を授けていた

だき、たくさんの方の事を聞いていただいた場所です。一歩中に足を踏み入れると、私たちが確かに先生と時間を共有した場所なのだということを実感しました。

私たち開発社会ゼミのメンバーもこれから社会に出ていきます。先生と過ごした日々を胸に、先生に授けていただいたことを忘れず、先生の教え子であることを誇りに頑張ります。

緒方先生、本当にありがとうございました。

開発社会ゼミナール一同

拓友会

緒方先生と共に「拓友」を作成しました。

正月2日、箱根駅伝の応援中、「緒方先生が亡くなった」との知らせを受けました。瞬間、「正月早々悪い冗談であれば」と願いましたが、現実はいかんともしがたく、無念な思いがこみ上げてまいりました。

緒方先生には、研究と学生指導に情熱を注がれる傍ら、拓友会活動についても親身になってご指導をいただきました。特に『拓友会50年誌』の発刊（平成9年）と毎号の『拓友』発行に当たっては、企画から編集まで常に参加いた

だき、煩雑な資料と写真の収集にも労をいとわず、いつもの謙虚さと情熱とで応えていただきました。

学科と拓友会の歴史を熟知されていた先生のご逝去は、拓友会にとっても大きな痛手であり、誠に残念でなりません。

緒方先生、今まで校友会のためにご尽力いただき本当に有難うございました。どうぞ安らかにお眠り下さい。心よりご冥福をお祈りいたします。

会報「拓友」編集委員代表 内田俊太郎

就職状況

今春卒業した154名（男96名・女58名）の就職状況は学部資料（3月末現在）から次のことがわかる。

まず就職決定率は、男93.1%、女95.5%、学科総合94%であり、昨年はそれぞれ91.1%、91.4%、91.3%であったので、いずれも改善した。これは学部平均をやや上回っている。

つぎに就職先を産業分類でみると卸・小売業に34(13)名、製造業に13(3)名、サービス業に15(8)

名、金融・保険業に11(6)名、情報通信業に7(2)名、地方公務員に6名となっている（括弧内は女子の内数）。他に、農協、建設、運輸、教育・学習支援、医療・福祉の各業種に1～3名がある。他方、進学（大学院・留学等）が10(5)名、研究生・聴講生を含む無業に20(7)名、アルバイト・派遣・自由業に3(1)名があり、これは近年の傾向といえる。また過年度卒業生を含む7名が青年海外協力隊に合格した。

新カリキュラム

平成18年度 新カリキュラムがスタート

平成18年度スタートの新カリキュラムは、コース制度廃止に伴い大幅に内容を刷新されました。特に学科の特徴を活かすため、講義ばかりでなく、実験・実習、野外教育にも力を入れています。自然科学から社会科学や人文科学まで実験実習を行える学科は他にはありません。さらに、本学科の学際的講義を現地で実践的に経験するため海外研修をスタートさせました。これは、アジア・アフリカの途上国で技術協力の現場を視察したり、現地の専門家や教員から講義を受けたりするものです。また、途上国の学

生との意見交換の場を設け、学生の視点から異文化交流や技術協力のディスカッションを行います。

オプションとして、将来、国際協力分野に進路を希望する学生のために、「国際協力ボランティア養成プログラム」を特別に開講しています。このプログラムは、学科開講カリキュラムに加えて、より実践的な講義・実習を行います。多彩な教育内容で、今後とも多くの同輩が海外に飛躍することを期待します。

新科目

新科目「国際機関特別講義」はじまる。

学科の特徴ある授業科目の一つとして「国際機関特別講義」があります。国際機関や国際農業研究協議グループなどの組織の役割、国際関係の構築に果たしている現状、国際機関で働く際の心構えなどについて、国際機関の職員および実務経験者がオムニバス形式で講義をしています。今年度は、国連本部政務官、国際移住機

関・駐日事務所代表、ユニセフ、国連食糧農業機関（FAO）、WFP国連世界食糧計画などから講師陣が出講しています。また、49年卒の草野孝久氏（国際協力機構（JICA）地球ひろば・所長）も講師陣に加わっています。

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~ids/lecture/kokusaikikan.html>

海外調査・研修

教員の海外調査・研修

この一年間にも学科では海外調査、交流、研修が幅広くおこなわれました。

JICA筑波国際センターのキューバ小規模稲作技術コース研修員一行9名が平成17年5月24日に本学科を訪問し特別セミナーを開催したのを初め、8月19日～9月5日のガーナ海外研修には1～3年次の学生15名が参加、10月1日より一ヶ月間滞在されたインドネシアのボゴール農科大学のヘルー先生による公開セミナーがあり、また10月30日～11月5日にはタイで農業・農村の実態調査とアグリビジネスの展開状況を調査、2006年1月にはメキシコ・オアハカ州で社会開発、経済振興、環境保全に取り組むローカルNGOの活動を調査、3月にはフィリピン国

ルソン島アルバイ州ギノバタン町における実験農場を拠点に学生による開発協力プロジェクト活動を行いました。このような多様な活動が、学生のモチベーションを大いに高めています。



実験農場内で椰子を飲みながら休憩

海外研修計画

平成18年度の海外研修は中国・海南大学を計画

昨年度の学科海外研修はガーナ大学で実施したが、今年度は中国の海南大学を拠点に実施する方向で決定した。海南大学のある海南島は中国でも最南端に位置し、唯一の熱帯地域にある。同大学は海南省唯一の総合大学で、海南省の省都海口市にある。現在、海南大学には本学科OBの桑村和朝氏(1969年度卒)が客員準教授として教鞭を執っている。その関係もあり、本学部は海南大学と協定を結んでいる。今回の海外研修は桑村氏の全面的協力により実現可能となった。

去る3月上旬、半澤和夫教授と倉内伸幸助教授の両名は海外研修の予備調査として海南大学



海南大学スタッフと共に(右から2人目が桑村氏)

と広州市を訪問、大歓迎を受けた。協議の結果、本年12月下旬、10日間前後の研修を実施する予定。研修内容は海外での危機管理講座、海南島の歴史・文化などの講義、海南市の市場や近郊農村などを訪問する。またリー族やミャオ族の少数民族の暮らしや文化に触れ、農企業も視察する。帰路は、中国でもとくに経済発展の著しい広州市を訪問し、その現状を探る。また中国語や英語による海南大学生との意見交換も実施する。参加学生は20名程度の予定。今回は符副学長と懇談したが、相互交流を積極的に進めるためにも、海南大学生の本学への訪問をぜひ実現したい。

協力隊続々

「協力隊」「協力隊OB」海外に飛躍

学科の発足から現在に至るまで、青年海外協力隊に参加した卒業生は100名を超えます。また開発協力ボランティア養成プログラムの発足によって合格率が向上し、現在、語学訓練中も含めると10名の卒業生が協力隊員として活躍しています。その後の進路も様々ですが、さらなる専門家として高橋貞雄氏(パナマ)、坪井達

雄氏(ウガンダ)が、また、国際協力専門員として、富高元徳氏(ウガンダ)、FAO職員として新野有次氏(タイ)が活躍中です。さらに、ボルネオ生物多様性・生態系保全プログラムの初代チームリーダーとして国際協力機構(JICA)職員の草野孝久氏が、コンサルタント会社では富岡丈朗氏など多くのOBが活躍しています。

海外の拓友

海外で活躍する卒業生

竹村 真奈(平成12年卒業)

在タンザニア日本大使館勤務



タンザニアの子供達と一緒に

タンザニアでは雨期が始まりました。先週はランチタイムになると決まって土砂降りの雨で、道路也大渋滞になっていました。でもおかげで緑がどんどん生えてきて、まぶしい感じです。タンザニアに来て半年が過ぎました。先週は地方出張でキリマンジャロのあるモシ・アルーシャに行ってきました。草の根無償の事前・事後

調査でした。マサイのいる乾いた土地への水道建設とか、村が分断されている地域への橋建設など、なかなか裨益効果の高い案件ばかりで、私も幸せ分けてもらいました。

川瀬 暁子(平成15年卒業)

ケニア・ナイロビの孤児院「マトマイニ・ホーム」でボランティア活動

到着は12時間遅れましたが、日曜日に無事到着しました。ケニアは雨季に入り、毎日雨が続くのでなかなか外に出られませんが、やっと振り出した雨に、ケニアの人々は喜んでいるようです。1年振りですが、またナイロビには続々と大きなスーパーマーケットが建ち、道路も工事されています。スラムに近いママの家も少し大きくなっていて、経済は発展しているのかなと思います。これからキベラ・スラムを訪れてみようかと思います。

新任・退任

〔新任〕市村 嘉奈子 副手



4月から着任された市村さんは本学科OGで、3月に卒業したばかり。趣味はスポーツ、日大サマースクールでケンブリッジ大学に留学(2回)、英語が得意とのこと。今後のご活躍を期待しております。

〔退任〕山口 貴子 副手

平成13年から勤務されていた山口副手が、3月に退職されました。着任早々の東京からの引っ越しに続き、こちらでの学科事務を軌道に乗せていただきました。5年間どうもありがとうございました。これからのご健勝をお祈りいたします。

拓友賞

拓友賞を 山崎 直人 君に授与



毎年、成績優秀でなおかつ拓友会活動に積極的に協力してくれる卒業生に贈られる拓友賞は、平成17年度卒業生の中から国際地域開発学科の推薦を受けて山崎直人君に授与されることが決まりました。

そこで、平成18年3月23日に行われた卒業謝恩会の席上、谷地三知也副会長から授与されました。卒業生を代表して、拓友会発展の大きな原動力になっていたことを期待します。

平成18年度総会並びに学生・OB活動報告会・懇親会のお知らせ

平成18年度の総会並びに学生・OB活動報告会、懇親会を下記の通り開催いたしますので御案内いたします。出席希望者は御面倒でも事務局までお知らせください。

開催年月：平成18年6月24日(土)

場 所：日本大学生物資源科学部 湘南キャンパス

時 間：「総 会」午後2時から3時 本館13階 会議室

「学生・OB活動報告会」午後3時から4時

「懇 親 会」午後4時から6時

会 費：お一人 3,000円 同伴者 2,000円(当日会場で徴収します)

参加希望者は、6月17日(土)までに拓友会事務局までお知らせください。

〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866

日本大学生物資源科学部内 拓友会事務局 早 川 治

TEL&FAX. 0466-84-3457(事務局直通) E-メール takuyu@brs.nihon-u.ac.jp

INFORMATION

- 拓友会ホームページを御覧下さい。
対象を限定せず、誰にでもみて頂けることを目指したものとなっています。
拓友会のURLは次の通りです。 <http://www.brs.nihon-u.ac.jp/~takuyu/>
- 会員のE-メールアドレスの登録
最近E-メールが一般化してきており、各自の情報のやり取りに利用されています。
拓友会での情報伝達にE-メールを利用する事も考え、今回、拓友会Eメールアドレスにアクセスいただき、その後拓友会より返信メールを送付し会員のE-メールアドレスを登録させていただきます。
拓友会E-メールアドレス takuyu@brs.nihon-u.ac.jp にアクセスお願い致します。
- 1万人の拓友の輪を広げよう!!
(1)地方大会、懇親会の開催。
(2)各種イベントの開催(同期会、ゼミOB会、恩師との食事会、ゴルフコンペ等)
(3)住所不明の拓友会会員の情報及び慶弔情報
その他盛りだくさんの計画・情報を拓友会事務局にご一報下さい。
事務局から、会員情報、その他規定の範囲内で皆様の活動を応援します。

【編集後記】今号も海外関係の紹介記事が多くなりました。いずれも短い記事とせざるを得ませんでしたが、その進展ぶりを感じとっていただけたかと思います。

刷新されたカリキュラムと、先生方の推薦図書名を拝見する機会を得ました。その多種多様なこと!

楽しくなり、学び直したくなりました。多様性は豊饒のもと、単一性は貧相の元凶。貧相に

ならぬよう、多くの学生が学科の多様性を楽しみ、深く味うことを願ってやみません。

緒方行廣先生が逝去されました。今号では、先生の徳を偲び1ページを追悼にあてました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。先生の、いつもの、あの笑顔を思い浮かべつつ。

発 行：日本大学拓友会
編 集：会誌編集委員会 平岡 完勝
事務局：日本大学生物資源科学部
国際地域開発学科内
住 所：〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866
TEL&FAX. 0466-84-3457
印 刷：Basic Print